

シンポジウムSY1-4

我が国のフーカー潜水漁師の就労実態調査ならびに労働災害予防策の情報展開 (第二報)

森松嘉孝¹⁾ 望月 徹^{2),3)} 村田幸雄^{4),5)}
 錦織秀治^{1),6)} 石竹達也¹⁾

- | |
|---|
| 1) 久留米大学医学部環境医学講座
2) 東京慈恵会医科大学環境保健医学講座
3) 株式会社潜水技術センター
4) 国際潜水教育科学研究所
5) 潜水救急ネットワーク沖縄
6) 有限会社中国ダイビング |
|---|

【背景】

船上や川岸に設けた送気装置からの送気を吸いながら作業を行うフーカー潜水において、2019年、送気装置のメンテナンス不足により、一酸化炭素中毒によるフーカー潜水漁家族死亡事例が発生した。

【目的】

フーカー潜水漁の労働安全衛生向上に寄与する事故防止策を立案する。

【方法】

全国のフーカー潜水作業現場を訪問し、潜水方法、減圧症既往および使用機器のメンテナンス状況を調査する。そこで、潜水事故予防のアイデアを収集し、予防啓発情報を発信する。

【潜水データ収集調査】

養殖生簀から水揚げの際、最も危険な潜水作業である“サライ”の潜水データを記録した結果、その浮上速度はUS Navyの基準を超える9.6m/分であった。また、ナマコフーカー漁潜水プロフィールの結果から、体内の残留窒素を算出した。

【安全啓発活動】

A漁協地区では最近5年間に3名の潜水漁師が死亡していたことから潜水安全講話を行い、今後の安全システム確立の助言を行なった。フーカー潜水作業専門のチームを編成しているB養殖事業所でも安全講話を行った。

【安全管理良好事例】

ダイビングインストラクターとフーカー潜水漁兼業C氏は、フーカー潜水漁の際、10Lの予備タンクを装着

して漁を行っていた。100名以上の潜水漁師を有するD潜水土組合は、毎年潜水教育専門家を招いて若手へ潜水訓練を行うことで心身を鍛え、40歳代後半には潜水業務を控えることができる環境が整っていた。E潜水株式会社ではコンプレッサーの木枠カバー表面に、各種安全点検項目とその点検を行なった日時を大きく明記していた。

【考察】

養殖業に従事する潜水土は危険な作業を強いられている可能性があり、網の水揚げ速度を制限する必要がある。また、減圧症発症時のバックアップ体制、および容易に最新の潜水安全情報を入手できるシステムが必要である。

本調査は、2022年度日本財団助成金による調査研究事業として行った。